

ムシガレイ放流技術開発調査

山 内 高 博 ・ 山 田 嘉 暢

調 査 目 的

マガレイ、マコガレイに次ぐ沿岸重要魚種である本種の種苗放流技術を確立するため、人工種苗の放流後の追跡調査により適正放流時期、サイズ、場所等を検討する。

調 査 方 法

1. 調査期間 平成7年4月～平成8年3月
2. 調査海域 日本海：深浦～鰺ヶ沢沿岸
3. 調査船 青鵬丸（56トン、D650PS）
4. 調査項目及び方法

(1) 分布生態調査

ビームトロール（ビーム長5m）を使用し、水深別の生息場所を把握。

(2) 漁業実態調査

月別、漁業種類別漁獲量を把握。

(3) 追跡調査

人工種苗を放流し、放流魚の移動、分布を把握。

調 査 結 果

(1) 分布生態調査

平成7年6月から10月にかけて各月毎に、高山沖及び出来島沖において延べ16回ビームトロールによる調査を行った。1回当たりの曳網時間は20分であり曳網水深は60～100mであった。主な漁獲物は、ハオコゼ、ヒメコウイカ、クロウシノシタ、ネズミゴチ、ヒラメ等であったが、ムシガレイについては天然魚及び放流魚とも漁獲されなかった。

(2) 漁獲実態調査

図1に日本海主要3漁協の月別漁獲量の推移を示した。これをみると鰺ヶ沢及び大戸瀬漁協では3～5月に、深浦漁協では2～4月に漁獲のピークがあった。

また、図2に鰺ヶ沢漁協における漁業種類別月別漁獲量の推移を示した。

全体では、刺網が2,117kg（45.7%）で最も多く、次いで底建網が1,676kg（36.2%）となっていた。

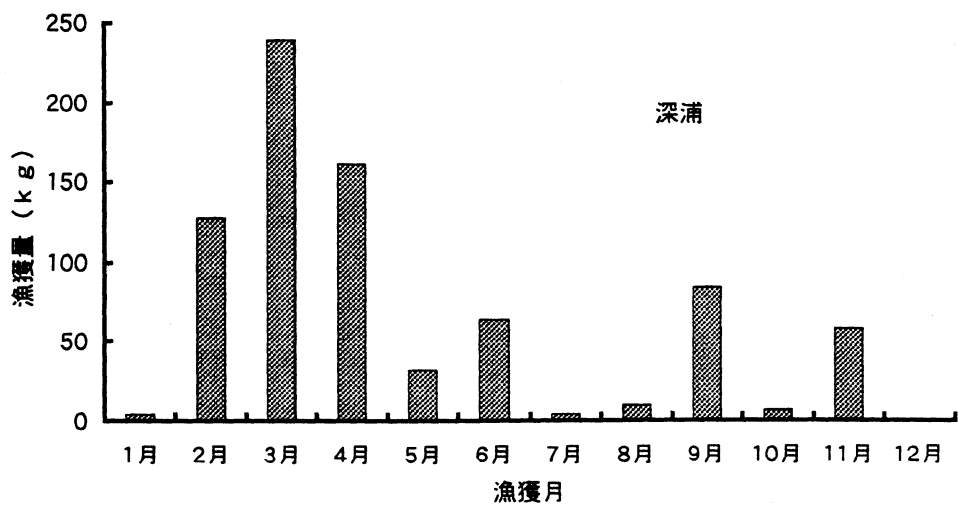
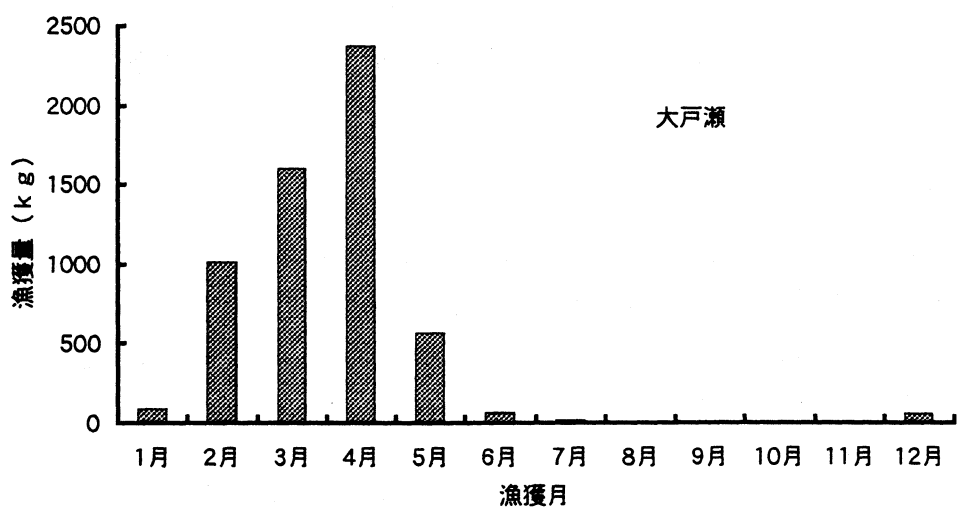
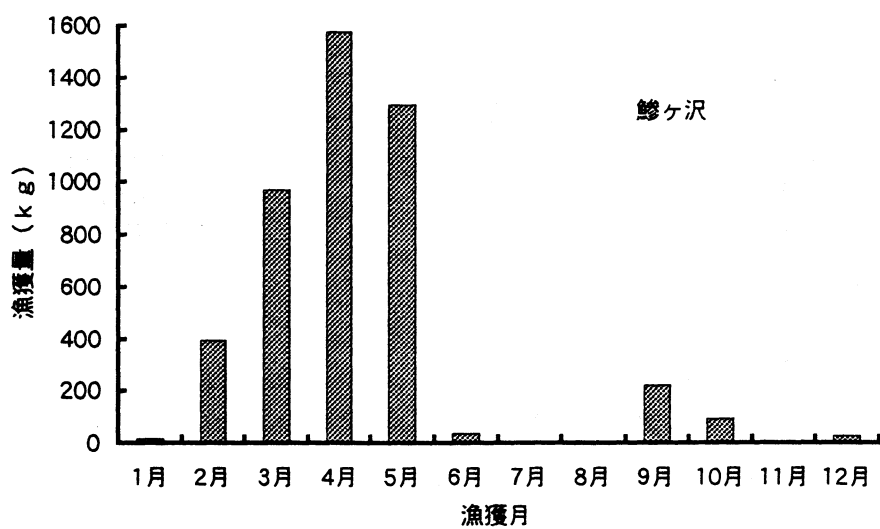


図1 各漁協におけるムシガレイの月別漁獲量の推移

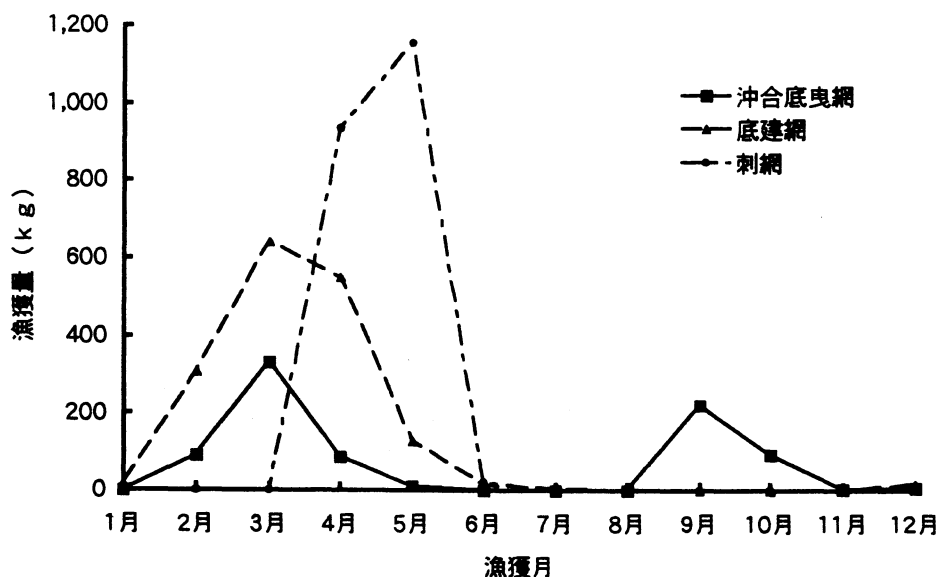


図2 鰺ヶ沢漁協における漁業種類別月別漁獲量の推移

(3) 追跡調査

県水産増殖センターで種苗生産、中間育成した幼魚の標識放流状況を表1に示したが、平成7年度の再捕報告は0尾であった。これは、(1)の分布生態調査で採捕されなかったことと関連があるものと思われ、海況変動等によりムシガレイ放流魚が移動、分散したものと推察された。今後、さらに調査を継続する必要がある。

表1 ムシガレイ標識放流状況

放流年月日	放 流 場 所	放流尾数	放流サイズ (全長)	標識の種類
平成6年03月08日	鰺ヶ沢沖 水深60m	5,000	14.0cm	黄色ディスクチューブ
平成6年03月16日	大戸瀬沖 水深30m	5,000	14.0cm	白化魚
平成7年03月08日	鰺ヶ沢沖 水深60m	2,000	11.3cm	青色ディスク
平成8年12月10日	鰺ヶ沢 北東8km沖	4,157	11.2cm	黄色リボンタグ